

診察室における反復血圧測定による血圧値の変化に関する因子の検討**Factors relating to the reduction in office blood pressure after repeating deep breath**

石光 俊彦

獨協医科大学 腎臓・高血圧内科

【目的】 高血圧治療ガイドラインによれば、診察室血圧(OBP)の測定においては1-2分間隔で測定を繰り返し、安定した2回の測定値の平均で評価することとされている。しかし、数多い高血圧患者の实地診療において測定を繰り返すことは難しく、1回の測定で評価される場合も多いと思われる。本研究では診察室血圧が高値を呈する高血圧患者において、測定を繰り返すことによる血圧の変化を検討した。

【方法】 2019年3月から2020年2月に外来を受診した高血圧患者で、診察室の収縮期血圧(SBP)140mmHg以上を呈した36名を対象とした。1回目の測定の後、深呼吸を繰り返し1-2分後に2回目の測定を行い、血圧の変化に関する因子を検討した。

【結果】 1回目のOBPは148/80mmHgであったが、2回目は137/77mmHgと平均11/4mmHg低下し、61%が非高血圧となった。SBPが10mmHg以上低下したR群(16名)と10mmHg未満のN群(20名)の比較では、R群の方が男性が多く(75% vs 30%, $p=0.018$)BMIが高値(25.6 vs 21.4, $p=0.047$)であり、血圧低下とBMIの間に有意な相関が認められた($r=-0.624$, $p=0.005$)。他の背景因子やOBP値、家庭血圧などの身体所見および血液・尿検査所見には有意な違いは認められなかった。

【結論】 外来治療中の高血圧患者でOBPが高値の場合、深呼吸を繰り返すことによって半数以上が非高血圧となり、この傾向は肥満男性において多く認められる。